特別
チ12
3656
19

412
3656
19

宮内庁書陵部

次第

義乃為も一ゝ
四方よりひろめん
乃去一遍と中世ゝ
三世聖乃
中世博厳乃
あゝゝ不思議を
万人安穏往生
おゝ礼を国土乃

ゝゝゝ

ひろめすとの霊を養ふまうをせ
ん　孫注新むかひ
ものよりわん　乃行上
思ひの海山成くて目を出
棹衣紀乃関ふ海うら出の
ゆ数うくなわて可もきうあま
の比花乃新よ美よくわく
恵人留是い新新新ふ美て
詞

若ふまおうを乳を廣めりやと思
ひん　ゆ数や実仏法乃力とて
世間聚集ふきこふ袖を洗ふ袖
隆を洗いて高きうぬまを
おへて志佛三昧孔花翻ふ出の
人乃方新きよ　所いなるまふ
海湯乃花孔衣のとけしふ心い

[illegible]

[illegible]

[illegible]

往生を願ふべきやうんぬこれも
不審なり　うん　なるべくく
法不審なるものは是い法性豊に
法むさうを四句の文あるべし
四句の文乃上に字をとりて称
文乃なるを付うわ唱変宝往生
南無阿弥陀仏とこれ文なるわ

法界三昧　ねこ四句乃文と
やうにいろ　なるあるべし
やうん亟廉の中まふ志め
ニ、ヤキ
行人　いろく後てきうをヤ
さうん云字名号　一遍法十界然正
一遍称百万遍志一遍称人中
上こぬぬ花は四句の文乃上乃

上五九

字本願ハ六十第人とは書る
、、（三ヲ上カルし）、、、

[illegible]心源心迴向發願乃鐘打鳴
[illegible]
[illegible]
[illegible]数十聲一声数
[illegible]
遠ひをもむうへ[illegible]ふうの数き
[illegible]
[illegible]
[illegible]

孫うゐしとなる　き数やく
きうかめて弥陀国はくしき
たのもうたのもしき　たのこう
ほうこれ最勝乃仏世も　弥陀
一数と　ゆ拍を　き数やく
八万諸聖教皆是阿弥陀仏なる

一ゝゝゝ

是いかなるきなるすぢ歌の人物か
昔よりわが故郷寺とうちうる家を
乃番古字に不号とかへ来かる
思ひもよらぬるてしゐ　いや
見も法華経の法法華とにほ
めを　うも法華経法華とは
法華かい何くふ位人う　ひるい

すこういあれ石塔ひてる
きやかあれ石塔いいるミ
或乃法華ときうゆーる法華
とは不審なわ　さ乃ミかを不審
志ひうとくに乃ミ者い法寺ふ
値遠のあまいすあ表かも
秋や過ぬるしー　法ふいりうの

凡法ゝのなを流さんも恥の
しるやうに神とても上人よ我
ゆいあき法乃和歌式ゆい我う
とて石塔乃の穴乃ひろと
ともふ笑まくわく　佛説よ
但を誓願するとおたる歌を乃巻
六字乃名号我出法界衆生佛およ

うはゝ巻まい
蓮しはゝ花ゆわくたわ
音楽乃歌ゆるゆ乃あうたをよ
をよ付ても絲乃心ひゝ法を
教三はゝ種うちなゝ同言よ
南無阿弥陀佛弥陀如来　あう
ゆこうゝ乃歌乃名号やかま世乃

宿世御願成就
仏乃御名称
歌して供奉
すべきなり
わが
弥陀
乃世界を
うかや極楽の
たるべし
乃　菩薩
清浄
たまひくれば

考乃際新清く
極楽世界
新さよ　極楽
そまつ
清本尊
万乃の大菩薩
神とひ

信心おいて和光の塵ひろく一味
の方便をもて衆生済度の法音を
たわ　されい毎日一度い西方
浄土ふ通ひ竹りひて来迎引接の
誓願をあ　おりまの
笠寺をよ中弥陀堂や
宿東迎ひ義目乃きへとや
者を哀れの法華一仏
と西方乃弥陀如来無量寿観経を
説て説法示現観世音三世利益
同一味のうとや我ふ為めの
必所なわ　為我成仏乃ひわを
うふふ世界人乃衆ちりふは
ひうとき法法乃法毎日三な祈

きかせてもつぎつぎふ
ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ
極楽をねがふ國ぞと
ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ
なまじやう悪ハ形乃ごとひ乃ごとも
ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ
宮ハれ吉ぬの月ぞ西方も家を
ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ
志ず童ぶつ心乃浄土とは
ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ
世ぞ敬ふを拝むなわ　歌舞ぞ
ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ
菩薩も撫ぶ乃　佛ふを
ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ
志ぶ〳〵ぶつ　ひとわなぶ佛ぞ
ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ
佛ぬを見ぶん　をぞ〳〵ぶる
ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ
法ぞふを人ぶ〳〵法乃ふを人ぞ
ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ
実もぬ家絲名乃数ぶ　屋宅ぶ
ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ
ゑ〳〵ぶ　音楽乃あ　吳服
ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ
墨ぶて　花ぶ　袖を
ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ　ぶつ
うへぶや西〳〵ぶ　ぶき上人の

利益うなと菩薩堂宮ハ面こゝ
陰堂のうて仏六字乃歌を写す
一回ゟ礼したまのゝハあゝた
なわらる寄場うゝ